

専門機能強化型児童養護施設の検証(まとめ)

現状

(1)入所児童の状況

- ① 対応が難しい児童の増加
  - 情緒的問題・行動上の問題を有する児童(平成24年6月育成支援課調査)(調査対象児童数2,779名)
    - ・情緒的問題 ⇒ 34.5%
    - ・反社会行為 ⇒ 18.4%
    - ・非社会的行為 ⇒ 25.9%
    - ・精神・発達的問題 ⇒ 26.8%

(2)都の専門機能強化型児童養護施設実施状況

- ①平成21年度から本格実施し、平成25年度は40施設で実施している。(※モデル実施19年度2施設、20年度4施設)

効果検証

◆専門機能強化型児童養護施設アンケート調査結果より(平成25年7月実施)(調査対象40施設)

(1)事業開始前を「普通」とした場合、以下の取組による効果について回答下さい。

内容	「大きい」、「やや大きい」
①非常勤医師配置の効果	38施設(100%)
②治療指導担当職員配置の効果	35施設(92%)
③施設運営向上事業の実施	37施設(97%)

(2)非常勤医師・治療指導職員が配置されて以下の事項についてどう思いますか。

内容	「そう思う」、「ややそう思う」
治療的・専門的ケアを行うことで、施設内での児童の安定や自立促進に繋がった。	37施設(97%)
ケア技術等の助言・指導等により、直接処遇職員の個別的ケア能力が向上した。	37施設(97%)
事例研修やケースカンファレンスを通じて、専門的ケアを必要とする児童の状況について、情報を共有できた。	38施設(100%)

児童に対する  
ケアへの  
効果大

(3)専門機能強化型児童養護施設未実施施設の意向  
※10施設中9施設で実施の意向がある。 ※課題は医師の確保

新規で開設したい	1施設	内容	施設数
条件があれば新規で開設したい	8施設	精神科医の確保が困難	6
現時点では開設に意向はない	1施設	ハード面での条件整備が出来ていない	1
		発達障害と特定できない幼児中心施設で対象ケースが少ない。	1
		小舎化(改築)後に指定申請したい	1
		人材確保と育成が追いついていない	1

今後の方向性

○専門機能強化型児童養護施設の充実

現在、民間児童養護施設40施設(児童養護施設の75%)で実施している。⇒ 全ての施設で実施

主な課題

(1)非常勤医師配置後の課題や問題と思うこと

内容	施設数
医師の継続的な確保に不安(確保の困難性)	7
医師の勤務回数が増やせない・医師不足	5

(2)治療指導担当職員配置後の課題や問題と思うこと

内容	施設数
治療指導業務の充実	6
ケアワーク業務の理解と連携	5
心理職同士や他の職員との連携が取りにくい	3

[施設長へのアンケートから]  
○他施設の医師との情報交換が必要  
○自施設だけでは限界があるので他施設の取組状況を知りたい  
○精神科医師、治療指導職員の施設内の位置づけを明確にしていく必要がある

[非常勤医師へのアンケートから]  
○施設内で精神科医をどのように活用するか定まっていなと思われる(心理職とダブることがある)  
○非常勤医師の横のつながり  
○非常勤医師に何を求めているのかを明確に

課題への対応

○求められる対応(アンケート調査から)

○専門機能強化型児童養護施設について機能強化するための方策や提案等(施設長アンケート調査より) (リーダー職員アンケート調査より)

内容	施設数
医師の勤務回数増・医師確保システムの構築	6
児童相談所の児童養護施設バックアップ・支援体制強化	5
職員体制の充実、複数の職員によるケアが可能となる体制(現在の配置基準では不十分)	4
他の施設の取組み内容が欲しい。都への報告書を集計しフィードバックして欲しい。	3

内容	施設数
職員同士の共通認識・情報・意識の共有	26
専門職の役割を明確にしてコミュニケーションや連携を強化する。	13
専門職をまとめる立場のスーパーバイザーやマネジメントが必要	9

○非常勤医師が働き続けるために必要なこと(非常勤医師アンケート調査より)

内容	回答数
処遇職員や心理士など職員配置の充実・人材育成	5
精神科医師の役割整理	5
非常勤医師同士の交流、社会的養護に関する知識の集積	3

○求められているもの(検討・対応すべきもの)

- ・事業内容の標準化
- ・専門職の役割と業務の明確化
- ・医師や専門職の連携強化(情報・意識の共有、医師の確保)